

平成30年度 学校評価総括表

五條市立西吉野中学校

教育目標		豊かな心を育み 自ら学び やり抜く生徒の育成				総合評価		
運営方針		「来てよかった、明日も行こう・行きたいと言える学校」づくり				A		
30年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標				
生徒の実態に合わせ、よりわかりやすい授業を目指して取り組み基礎基本の定着を図った。1年間を通してコミュニケーション能力向上に力を入れ、語彙力を高めるため読書はもちろんあらゆる機会に読書の推進を図った。生徒の基本的な生活習慣が定着しており、学習や行事、部活動等の目標を立て充実した学校生活を過ごしてきた。また、保護者も様々な場面で協力的であり特に、「カッキータイム」では、地域の方々とも連携を深め、ふるさとに誇りをもちふるさとを守り育てていく意欲をもった生徒の育成を図った。今後、生徒一人一人の、更なる学習習慣や読書習慣の確立、基礎学力の定着と向上、部活動の活性化にむけて取り組んでいきたい。また、何事にも進んで積極的に取り組む力を伸ばすことも必要である。また人権意識をより高め、達成感が得られる取組を推進するよう、全教職員の一一致の下、取り組んでいきたい。		・基礎、基本の定着を図り、学力の向上を目指す。		生徒の実態に合わせ、個に応じた能力を高める指導を工夫し、一人一人の基礎学力の向上をめざす。				
		・生徒の主体的な活動を重視し、明るく気力あふれる学校づくりを目指す。		生徒会活動が、より自発的・自治的な活動になるよう、学校全体で支援する。				
		・温かさとしのびの調和のとれた、規律ある学校づくりを目指す。		組織的な生徒指導を行い、生徒理解を深め、指導の充実を図りながら、基本的な生活習慣の確立を図る。				
		・自己の将来に対する目的意識を育成する。		勤労の尊さを理解させるとともに、ふるさとに誇りをもち守り育てていく生徒を育成する。				
		・心のふれあいを大切に、人権意識の向上を目指す。		人権意識を高める道徳教育を実践し、一人一人の人権を尊重する実践力を持った生徒を育てる。				
		・生徒が、心身ともに健康な学校生活を送れるようにする。		食に関する教育の充実を図るとともに、心身ともに健康な学校生活をめざす。				
		・保護者や諸機関との連携をより深める。		家庭や地域社会との連携を深めるとともに、西吉野小学校・西吉野幼稚園と連携し、教育活動全般に活かす。				
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策		
学習指導等	教材研究を深め、より分かりやすい授業の創造を図る。	・基礎基本の定着を図る学習方法の工夫をし、授業の振り返りを行って授業改善につなげる。	B	B	市のアンケートでも生徒が振り返りの認識がないので、授業スタイルの共通理解が必要である。 1年生の学力の2極化を解消するために個々の支援の強化が必要である。また、不登校生に対する学習支援のあり方も学校全体として取り組む必要がある。全国各市の学力調査の結果に基づき個々の生徒に合った指導を行うことができた 今年度初めて人権作文発表会で感想を発表する機会を設けたのが良かった。	読解力がすべての教科の学力アップにつながるのずっと続けている朝の読書タイムをしっかりと確保することが大切である。授業内で強調して振り返りの時間を必ず設ける。	学力テストの経年変化をみると基礎・活用力等向上している。今後も授業力の向上に努め、しっかりとした学力を付けて欲しい。少人数なので個に応じた指導に力点を置いてもらいたい。	
	生徒の実態に合わせ、個に応じた能力を高める指導を工夫する。	・個々の生徒の学力や学習状況を把握し、個に応じた指導を行う。	B					
	豊かな言語活動の推進を図る。	・読書や発表、意見交流の機会を設け豊かな言語活動の推進を図る。	B					
特別活動	生徒の自治活動が深まるように指導する。	・生徒が達成感や充実感を持つことができるよう活動内容を工夫する。	A	A	生徒会を中心として農園活動ややベルマーク運動から車いすの寄贈など、新しい取組も実施した。	生徒の自主性の向上に向けて、十分な企画実行のための時間確保を行う。	柿輝祭や体育大会等自信に満ちた姿が沢山見ることができた。	
生徒指導・教育相談	組織的な生徒指導を行う。	報告、連絡、相談等を確実にし、全校職員の共通理解を図る。	A		A	細かい部分についてその都度職員で確認していく必要がある。	あいまいな部分も気がついた教師が声をあげて全体で指導内容が共有できるようにする。 生徒の内面を引き出す場面を多く持ち、担任、保健室、家庭等連携を強化していく。 教師自ら5分前行動を行い、チャイムが鳴らないときも時計を確認しながら早め早めの行動をとる。あらゆる場面で教師が常に率先垂範し、生徒に範を示しながら生徒の実践力の向上に繋げていく。	・生徒たちは、落ち着いた環境の中で学校生活を送っているが、そのような中でも日々の生徒観察を怠ることなく、担任だけでなく、学校の組織として一人ひとりの子どもたちを大切にしてもらいたい。 ・教師が範を示すことはとても大切である。
	生徒理解を深め、個を生かした指導の充実を図る。	生徒の内面の成長を促し、悩みや相談にこたえていこうと心がけ、家庭や関係機関との連携も密にする。	A			日頃から生徒への言葉がけができていて何か困ったことがある生徒は教師に相談できていないか。		
	基本的な生活習慣と規律ある生活態度を養う。	挨拶をあらゆる場面で気持ちよく進んで出来るように継続的な指導を行う。	A	A		朝のあいさつ運動をはじめ、生徒自らがあいさつの重要性を理解し、実践している。		
		教職員が5分前行動を率先垂範して行う。	B			5分前行動を率先して行うことができた。50分の授業を落ち着いたスタートすることで学習効果が向上した。また教師が率先垂範を行うことによって、生徒の行動もテキパキと行うことができた。		
	清掃が行き届くようにするとともに、身の周りの整理整頓がなされるように指導する。	A	A	清掃の時間をできるだけ確保した。教室内は常に整理整頓を心がけさせた。常に美しい環境で過ごせるように配慮し指導した。				

進路指導 キャリア教育	勤労に関わる体験活動を通して、勤労の尊さを理解させる。	教育活動において、体験活動やボランティア活動が活発に行われるようにする。	B	B	3年ぶりに地域の清掃活動を実践した。継続していくことが大切である。	体験したことを将来に生かせるよう、それぞれが自主的に行動できる力を培うように進める。	・故郷を学ぶことはとても大切で、出来ることなら統合校でもカッキータイムのような活動を取り入れてもらいたい。
	地域の実態を知り、ふるさとに誇りをもち守り育てていく生徒を育成する。	総合的な学習の時間を中心に、地域との連携を深めながら、地域への理解を深める取組をする。	A		地域の方の協力もいただきながら、特産品である柿の生産から販売までの実習を行うなど様々な活動を行い、生徒達も熱心に取り組んでいた。	さらに地域理解を深める取組を進め、ふるさとに誇りをもち、守り、育てていく生徒を育てていきたい。カッキータイムを中心に、地域の特産を理解するよう継続した取組を進める。保護者、地域の方へ参加の呼びかけを活発にしていこう。	
人権教育の推進	一人一人の人権を尊重する実践力を持った生徒を育てる。	学級のなかまが、励まし合い、支え合う集団づくりを進める。	A	A	不登校傾向の生徒について単なる怠惰の不登校ではないということに他生徒の思いが及ぶような方法を考えなければならない。	・教師自身がより人権感覚を研ぎ澄まし、道徳や学級活動をつかって人権尊重の精神を生徒に伝え「思いやりの心」を醸成していきたい。 ・世の中のことで、いろいろな情報を提供し、ともに考える機会を設けることが大事だと思う。	・生徒の様子を見ると、充実した学校生活を送っている様子が伺われる。今後も小中が連携した人権意識を高める取組を行い、いじめ等が無く、学校へ行くのが楽しいと思える学校づくりをお願いする。
		全教師が、人権講話を行い、人権意識を高めるようにする。	A		教師それぞれの視点から人権に関わる講話を行った。教師側の		
保 健 安全管理	食に関する教育の充実を図る。	地域の特産物を生かした食育を推進し、いのちの大切さを学ばせる。	B	B	柿の葉ずし、梅干し、梅ジュース作り、親子料理教室等を実施し、特産品を生かした食育の推進を図った。	親子料理教室への保護者の参加が減少している。地域の特産品や食文化を尊重し継承していく心育てるには家庭の協力が必要である。事前の参加呼びかけ等を工夫して参加をつのる。	・担任だけでなく、学年、全ての教師がアンテナをしっかりとて、保護者との連携、関係諸機関との連携を行いながら一人ひとりをしっかり見てもらいたい。 ・不登校生や卒業後の高校中退の増加の中生徒の心の成長を促す取組を今後も各種機関と連携しながら進めてもらいたい。
		給食指導を中心に、配膳、片付け等を含め正しい食事マナーを身に付けさせる。	A		保護者がたくさん参加し、給食試食会を実施した。栄養士さんからも食育講話をいただき有意義な研修になった。		
	心身ともに健康で安全な学校生活を目指す。	各種相談機関や保護者と連携し、生徒の心身の安定を図る。	A	A	気になる生徒については、ケース会議を定期的に行い、担任・保護者・カウンセラー等と連携し支援に努めた。	進学、統合に向けて新たな集団に自信を持って羽ばたけるように、心理面を重点に「生きる力」を育む取組が必要である。	
		非常時に自分の命は自分で守れるよう指導する。	A		火災、地震、Jアラート、防犯訓練等を実施した。また通信を使つてのタイムリーな指導を行い、年間を通じて啓発を行った。		
家庭・地域社会・他校種・関係機関等との連携	家庭や地域社会との連携を深める。	通信やホームページなどを中心にして学校の様子を発信することに努める。	A	A	学級通信はできるだけ頻繁に作成配布し、学級の様子や担任の思いを伝えた。保健だよりや生徒会新聞、ホームページなどでも情報発信につとめた。	・ホームページやブログの内容をさらに充実させるなど、今後も情報発信に努めていきたい。 ・三者面談や家庭訪問をより充実させていきたい。 ・学校運営協議会、地域や保護者の支援を頂きながら連携を強めていきたい。	・学校が多くの情報を発信することで、学校と保護者・地域の強い繋がりができ、地域の教育力を高め、若い先生方の支援に繋がっている。今後も多くの情報を発信してもらいたい。 ・幼小中一貫した取組など西吉野ならではの活動を積極的に推進し、少人数だからこそ個が生きる教育を今後も継続して欲しい。
		学校運営協議会やボランティアの方々との連携協力を図り、学校行事や三者面談、家庭訪問などで人間関係を深める。	A		・地域の方の行事等の支援のおかげでふるさと学習(カッキータイム)に取り組む事ができ今後も連携を深めていかなければいけない。		
	西吉野幼稚園、西吉野小学校等との校種間連携に取り組み、教育活動全般に活かす。	12年間を見据えた取組の内容を具体的に計画し進める。	A		A	幼小中連携部会の中の取組として、「12年間を見通した家庭生活・家庭学習の手引き」を作成し、配布説明をした。 ・12年間を見据えた教育を推進するため、さらに交流を深めていきたい。また、幼小中のギャップをなくす取組もさらに進めていきたい。 ・来年度も、組織的に連携を具体的に進めていきたい。	